



私がこの課題の代表者です

支援メニューはこちらを Click!

課題番号・課題内容

B8-1 メチローム解析支援 など

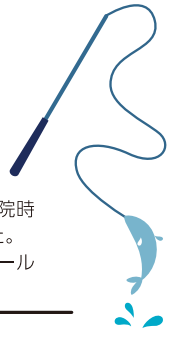
九州大学 大学院医学研究院 准教授

みうち ふみひと

三浦 史仁 先生

Miura Fumihito

金沢大学と東京大学でのポストドク・特任助教を経て九州大学へ。大学院時代から一貫してゲノム科学に関連した計測技術の開発に取り組んできた。高校生と大学生の息子がいる。息子が小学生時代にはじめてドッジボールにのめり込み、審判員として活動してきた。陸っぱり釣りが趣味。



今まで主に取り組んできた研究

次世代シーケンサーの時代になってからエピゲノム解析中心に技術開発を行ってきました。縁あってこれが BINDS での支援活動へとつながっています。

現在の取り組み、特に関心のある分野・研究

1本鎖 DNA に対して自在にアダプター配列を連結することが可能な技術を開発して以降、血液検査や考古学などのこれまで交流の無かった分野の研究者やメーカーの技術者に会う機会が増えました。異分野との交流は刺激的でとても面白いです。どんどん交流の輪を広げていきたいと考えています。

BINDS で支援してみたいこと、ユーザー（申請者）への要望

現在の日本のゲノム科学の計測技術はほとんどが舶来物です。輸入だけでは後追いしかできません。日本発のユニークな計測技術を作り出し、これを支援活動に生かしていきたいと考えています。支援活動のなかで頂いたユーザーの要求が新しい技術開発のきっかけになったこともたくさんあります。こんな計測をしてみたいという要望を是非お聞かせください。



この課題を支援しています

九州大学 大学院医学研究院 教授

いとう たかし

伊藤 隆司 先生

Takashi Ito

九州大学医学部卒業。東京大学大学院新領域創成科学研究科教授、同理学系研究科教授等を経て現職。ゲノム科学の創成期から独自技術による貢献を志してきた。エピゲノミクスと酵母の機能ゲノム科学が専門。



この課題を支援しています

九州大学 経済学研究院 産業マネジメント部門 / 農学研究院附属 昆虫科学・新産業創生研究センター

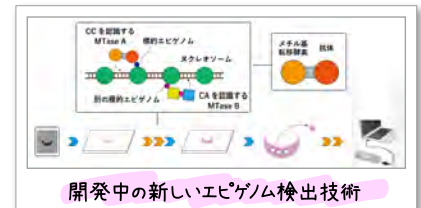
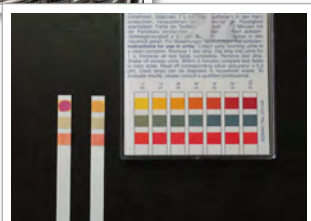
あらか ひろみつ

荒木 啓充 先生

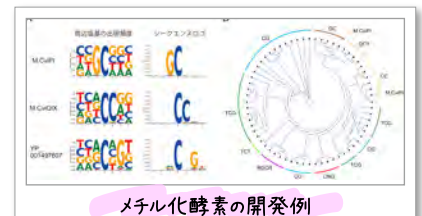
Hiromitsu Araki

製薬会社→バイオベンチャー→アカデミアで遺伝子発現解析、エピゲノム解析に従事。博士（システム生命科学）NZ で開催された第 7 回ラグビーワールドカップのオープニングセレモニーでエキストラとして踊ったことがプチ自慢。

ご研究の様子



開発中の新しいエピゲノム検出技術



メチル化酵素の開発例